

授業科目名	地域看護Ⅰ			担当教員	乗越 千枝	
開講年次	2年後期	セメスター	4	時間数(単位数)	15 (1)	
必修選択	必修	授業形態	講義	使用教室		
授業の目的	地域で生活する人々の健康について考えるために、健康と生活、社会、環境との関係性について学び、対象者にとっての生活の質について学ぶ。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で生活する人々の健康とコミュニティ、生活の質について考えることができる。</li> <li>2. 人間の健康に影響を及ぼす要因と健康に関する活動について理解することができる。</li> <li>3. 国際生活機能分類について理解し、地域で生活する人々の健康と生活について考えることができる。</li> </ol>					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	地域看護を理解するうえで重要な概念1 健康、生活、コミュニティ、クオリティ・オブ・ライフ	講義	予習：シラバスを既読もしくは持参の上、授業に参加する	60分	乗越	
2	地域看護を理解するうえで重要な概念2 プライマリ・ヘルス・ケア (PHC) と健康の社会的決定要因 (SDH)	講義	復習：授業内容を復習する	30分	乗越	
3	地域看護を理解するうえで重要な概念3 ヘルスプロモーション	講義	復習：授業内容を復習する	30分	乗越	
4	地域看護を理解するうえで重要な概念4 ノーマライゼーションとインクルーシブ社会	講義	復習：授業内容を復習する	30分	乗越	
5	地域看護を理解するうえで重要な概念5 国際生活機能分類 (ICF) の概要	講義	予習：テキストおよび厚生労働省HPのICF序論を読んでおく	30分	乗越	
6	地域看護を理解するうえで重要な概念6 国際生活機能分類 (ICF) の活用①	講義	授業中に提示した事例について展開する。2回にわたって行うため、授業の復習でもあり次回の授業の予習でもある。	120分	乗越	
7	地域看護を理解するうえで重要な概念7 国際生活機能分類 (ICF) の活用②	講義		60分	乗越	
8	地域における看護活動の実際 課題に対するフィードバック	講義	復習：これまでの授業での学びを整理する	60分	乗越	

先行履修 科目					
テキスト	平野かよ子 他編：ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生 第4版, メディカ出版, 2015.				
参考文献	世界保健機関 (WHO) : ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版—, 中央法規, 2002. 上田敏 : ICF (国際生活機能分類) の理解と活用—人が「生きること」「生きることの困難 (障害)」をどうとらえるか. きょうされん, 2005.				
科目の 位置づけ	看護の対象となる人間はコミュニティに所属して生活を継続しているため、あらゆる対象の看護にとって地域看護の視点は不可欠である。本科目は看護の基本概念である人間の生活と健康の理解を深め基本的なものの見方や考え方を養う。				
ディプロマポリシー との関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
	○			◎	
評価方法	筆記試験 100%				